

小論文 問題

次の文章を読み、第一問および第二問に答えなさい。

価値は主観的なものである。価値は金銭、名誉、幸福、文化、その他あらゆることにおいて存在する。しかし人間は社会を構成し、地球上に住んでいるのであるから、それらすべてと共存するという立場から物事に対する価値を考えねばならないだろう。それは金銭的価値でも、自分の幸福という価値でもなんでもよい。ただ最も重要な観点は、それが全時間、全空間を含んだ世界における最良の価値基準でなければならぬだろうということである。もしそのような立場で価値を考えれば、それが金銭的立場から入ってゆこうが、自分の幸福という立場から入ってゆこうが究極的には同じ価値基準に到達すると考えられる。もしそのような立場で価値を考えず、自分を含むごく狭い局所の世界だけを考えて、その中で判断をしているかぎり、その価値判断はエゴイステックになりやすく、より広い世界において成りたつ良い判断とはなりえない。逆にそれはより広い世界においてしばしば自分に対して不利なものとなるということを知るべきであろう。自分の一生、あるいは子孫までを通じて考える必要がある。自分が時空のある限られた世界にだけ関係し、それ以外には関係せずに存在するということは不可能である。今食べようとしている魚や肉はどこから来たものか、それを生産している所はそれによってどのような価値を得た悪をなしているかといったことを考えれば、今われわれは世界全体とつながり、また時間的にも長い過去から遠い将来にまでつながった現在を生きているわけである。自分が富を独占するといったことになれば当然のことながら社会不安を作り出すし、そうでなくてもすべての人が幸福な生活を送っているのを見る方が自分の精神にとつてもはるかに良いわけである。こういったことも価値判断の中に入れるのである。そういった意味から自分の行なうべき価値判断の基準はいやおうなく時空間の全域において成立すべき価値判断の基準であろう。そのためには(1)自分というもののまで全体の中で相対化することが自分自身でできねばならないという非常に困難な課題がその中に含まれてくる。つまり自分と全世界という立場に自分を置くという困難な課題である。

このように考えると自分にとつての価値判断の基準と他人のもつ価値判断の基準はまったく異なったものであるということにはなりえない。必然的に同じものとなってくるのではないだろうか。このようにして利己的立

場からの価値基準も全時空間における最良の基準を追究するというところに至って普遍妥当性、客観性をもつことになるのである。このような理想的な価値基準を実現することは困難である。およそ不可能であるといつてもよいかもしれない。しかし自分の世界を徐々に広げてゆき、判断のための因子を慎重に選んでゆくたえまない努力によって理想的なところへ一歩でも近づいてゆくことはできる。またそうしないと局所的には自分によっても大局的には自分にとつてよくない判断を自分自身がしてしまうという事態におちいる可能性があるのだから、理想へむかつて不断の努力をすることが要請されるといってよい。絶対的眞の存在する世界ではそれに平伏し、そのみに頼っておればよいという意味で比較的単純な世界であったといえるだろう。そういう世界がありえず相対主義の世界しかないという場においてはより一層の努力が人々に要請されているのである。不可知論におちいり虚無主義に墮落していつている暇はない。自然科学はそういう意味で時空間のより広い世界における眞、すなわち客観性、科学における価値を追究しているのと見ることができる。(2)コンピュータがこのような世界に対して役立つためにはコンピュータがさらに広い社会の勉強をしてゆかねばならないだろう。人工知能研究がさらに広い学問世界に拡大されてゆかねばならないということかもしれない。

(出典…長尾真『人工知能と人間』岩波新書、一九九二年)

第一問

傍線部(1)について。ここで筆者が述べている「自分」というもので全体の中で相対化する」とはどのような意味か。筆者の考えを二〇〇字以内で説明しなさい。(縦書き。句読点も字数に加える。)

第二問

傍線部(2)について。ここで筆者は「このような世界」における人工知能研究のあり方について述べている。あなたは、筆者の言う「このような世界」において、「キャリアデザイン研究」はどのような視点を持って取り組むことが重要だと考えるか。あなたの意見を四〇〇字以内で論じなさい。(縦書き。句読点も字数に加える。)